

平成20年度 事業報告書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日)

学校法人 作陽学園

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

本学の建学の精神は「大乘仏教に基づく宗教的情操教育による豊かな人間性の涵養」であり、和と礼、慈悲と智慧の精神を備え、人生を感謝と奉仕の気持ちをもって実践できる人格の持ち主を育成することである

(2) 学校法人の沿革

- 昭和 5 年 4 月 津山女子高等技芸学院を津山市南新座に創立
- 昭和 21 年 3 月 財団法人作陽学園設立認可
- 昭和 25 年 12 月 学校法人作陽学園設立認可
- 昭和 26 年 4 月 作陽短期大学家政科設置（入学定員 80 名）
- 昭和 32 年 4 月 作陽短期大学家政専修別科設置（定員 30 名）
- 昭和 36 年 4 月 作陽短期大学保育科設置（入学定員 40 名）
- 昭和 38 年 4 月 作陽短期大学音楽科設置（入学定員 30 名）
- 昭和 39 年 4 月 作陽短期大学保育科入学定員変更（入学定員 50 名）
- 昭和 41 年 4 月 作陽学園大学音楽学部音楽学科設置（入学定員 50 名）
- 昭和 42 年 4 月 作陽短期大学に専攻科音楽専攻設置（定員 10 名）
作陽短期大学音楽科入学定員変更（入学定員 50 名）
作陽短期大学保育科入学定員変更（入学定員 100 名）
- 昭和 43 年 4 月 作陽短期大学に専攻科保育専攻設置（定員 20 名）
作陽学園大学を作陽音楽大学に名称変更
- 昭和 45 年 4 月 作陽音楽大学に音楽専攻科設置（定員 10 名）
作陽短期大学家政科、保育科をそれぞれ家政学科、幼児教育学科に名称変更
作陽短期大学専攻科保育専攻を専攻科幼児教育専攻に名称変更
- 昭和 46 年 4 月 作陽短期大学家政学科を家政専攻（入学定員 40 名）と食物栄養専攻（入学定員 40 名 男女共学）に専攻分離
- 昭和 49 年 3 月 作陽短期大学家政専修別科廃止
- 昭和 50 年 4 月 作陽音楽大学音楽学部教育音楽学科教育音楽専攻（入学定員 20 名）
幼児教育専攻（入学定員 30 名）設置
- 昭和 58 年 4 月 作陽短期大学家政学科家政専攻に生活福祉コース、生活情報コース設置
- 昭和 62 年 4 月 作陽短期大学情報処理学科設置（入学定員 100 名）
作陽短期大学音楽科入学定員変更（入学定員 80 名）
作陽短期大学家政学科家政専攻入学定員変更（入学定員 30 名）
作陽短期大学幼児教育学科入学定員変更（入学定員 80 名）

	作陽音楽大学音楽学部音楽学科入学定員変更（入学定員 80 名）
	作陽音楽大学音楽学部教育音楽学科入学定員変更（入学定員 40 名）
平成 2 年 3 月	作陽音楽大学音楽学部教育音楽学科幼児教育専攻廃止
平成 5 年 4 月	作陽音楽大学音楽学部音楽学科 3 年次編入学定員設定（定員 30 名）
	作陽音楽大学音楽学部教育音楽学科 3 年次編入学定員設定（定員 10 名）
平成 8 年 4 月	作陽音楽大学、作陽短期大学音楽科が津山市より倉敷市に移転
平成 9 年 4 月	作陽音楽大学を ぐらしき作陽大学に名称変更
	ぐらしき作陽大学食文化学部食生活学科設置（入学定員 90 名）
	ぐらしき作陽大学音楽学部音楽学科入学定員変更（入学定員 120 名）
	ぐらしき作陽大学音楽学部音楽学科に情報音楽、アートマネジメント専修等設置
	ぐらしき作陽大学音楽学部教育音楽学科入学定員変更（入学定員 60 名）
	ぐらしき作陽大学音楽学部教育音楽学科に吹奏楽指導者専修等設置
平成 10 年 3 月	作陽短期大学家政学科家政専攻、食物栄養専攻廃止
	作陽短期大学幼児教育学科、専攻科幼児教育専攻廃止
平成 11 年 4 月	ぐらしき作陽大学食文化学部食生活学科 3 年次編入学定員設定（定員 20 名）
平成 12 年 4 月	ぐらしき作陽大学音楽学部音楽学科にモスクワ音楽院特別演奏コース、日本伝統芸能専修を設置
	ぐらしき作陽大学音楽学部教育音楽学科に音楽療法専修設置
	作陽短期大学音楽科にミュージカル専修設置
平成 14 年 4 月	ぐらしき作陽大学食文化学部食生活学科入学定員変更（入学定員 50 名）
	ぐらしき作陽大学食文化学部フードシステム学科（入学定員 60 名）、栄養学科（入学定員 80 名）設置
平成 15 年 3 月	作陽短期大学情報処理科廃止
平成 16 年 4 月	ぐらしき作陽大学食文化学部栄養学科 3 年次編入学定員設定（定員 16 名）、食生活学科 3 年次編入学募集停止
平成 17 年 4 月	作陽短期大学音楽科に音楽デザイン専修設置
平成 18 年 4 月	ぐらしき作陽大学音楽学部教育音楽学科を音楽教育学科に名称変更
平成 19 年 4 月	ぐらしき作陽大学音楽学部音楽学科の情報音楽専修を音楽デザイン専修に改組
平成 20 年 4 月	ぐらしき作陽大学子ども教育学部子ども教育学科設置

(3) 設置する学校・学部・学科等の学生・生徒数の状況

	入学定員	収容定員	学生・生徒数
くらしき作陽大学	380	1,602	1,236
音楽学部	140	760	536
音楽学科	80	500	338
音楽教育学科	50	250	193
音楽専攻科	10	10	5
食文化学部	160	762	629
食生活学科	50	200	170
フードシステム学科	30	210	99
栄養学科	80	352	360
子ども教育学部	80	80	71
子ども教育学科	80	80	71
作陽短期大学	90	170	127
音楽科	80	160	123
専攻科音楽専攻	10	10	4
作陽高等学校	284	852	649
普通科	274	822	633
音楽科	10	30	16

※ 3年次編入学定員

音楽学部 音楽学科 30人
 音楽教育学科 10人
 食文化学部 栄養学科 16人

※ 入学定員、収容定員、学生・生徒数は平成20年5月1日現在

(4) 役員の概要

【役員】 理事長 松田 英毅 監事 下村 董
 専務理事 帆足 昭徳 監事 石井 秀生
 理事 江原 稔
 理事 山野井 敦徳
 理事 馬淵 久夫
 理事 松田 藤夫
 理事 兎束 俊之
 理事 相田 俊夫

※ 役員氏名は平成20年5月1日現在

(5) 教職員の概要

専任教員数	くらしき作陽大学	93人
	作陽音楽短期大学	11人
	作陽高等学校	39人
専任職員数	法人本部	6人
	くらしき作陽大学	51人
	作陽音楽短期大学	4人
	作陽高等学校	12人

※ 教職員数は平成20年5月1日現在

2. 事業の概要

《音楽学部》

(1) 音楽学部グランドミッション3項目の実績

- ① 「いきいきと音楽にいき、音楽をいかせる人」を育成し、社会に貢献します
本学で音楽を学ぶことにより、音楽ができることに感謝の念をもち、前向きで、明るく、周囲の人々や社会に音楽をいかそうと積極的、能動的に働きかけることができる人材を育成すべく、教職員一体となり努力した。結果、多くの有能な人材が育ちつつある。
- ② 「音楽を通じて人生を奏でる夢に向かって努力する人」を、強い信念と卓越した技術で支えます
こうした人材を育てる為、教職員は常に研鑽し、共に成長しながら学生を支えるべく努力した。また、そうしたチームをサポートする事も様々な部門でみられた。その結果、数多くの学生達がコンクールに入賞を果たし、夢に向かって努力する人材が育ちつつある事を示した。
- ③ 「世界に誇れる音楽の拠点」を倉敷に創造します
倉敷市文化振興財団、倉敷商工会議所、玉島商工会議所、玉島おかみさん会、岡山ルネス、福山リーデンローズ、モスクワ音楽院（露）、ミラノ・ヴェルディ音楽院（伊）、カーセージ大学（米）、煙台大学音楽学部（中）、大連大学音楽学部（中）、瀋陽音楽院（中）等との提携・友好関係構築に「倉敷より世界へ」音楽文化を発信する拠点作りを進めた。

(2) 平成20年度重点目標2項目の実績

- ① 特色ある音楽教育（特色GP）の実践。
数々の特色GP申請を検討し継続されている。
- ② 受験生には「夢」、卒業生には「誇り」、在学生には「充実感と達成感」。学びの園の「実感」を提供。文化発信による大学の存在感アピール。

学内の学生アンケートにより実績を証明。また数々の演奏会、公開レッスン、講演会の実施により、文化発信による大学の存在感を示した。特に、作陽大学管弦楽団演奏会、同吹奏楽演奏会、オペラ公演、ファカルティー・コンサート等では、多数の観客を集め大学の存在感を示した。

(3) 主な事業報告

① 学内施設での事業

〈4月〉

11日(木) ジェラルド・プーレ ヴァイオリン公開レッスン&ミニコンサート
(音楽特講)

23日(水) ディアナ・ケメルマン ヴァイオリン・リサイタル (音楽特講)

〈5月〉

29日(木) C・シュリューター トランペットリサイタル (音楽特講)

30日(金) 青柳いずみこ ピアノ公開レッスン (音楽特講)

〈6月〉

1日(火) 室内楽の夕べ

8日(火) 第16回 作陽トロンボーンアンサンブル サマーコンサート

10日(木) ぐらしき作陽大学・作陽短期大学 トランペットアンサンブル演奏会

15日(火) オーケストラ公開リハーサル (音楽特講)

22日(火) オペラ演習研究発表会

23日(水) レギュラー吹奏楽団研究発表会

〈8月〉

5日(火) オペラ演習研究発表会

6日(水) サックス室内楽研究発表会

7日(木) Summer Concert

8日(金) Summer Concert

〈9月〉

27日(土) 第10回作陽ファミリーコンサート

29日(月) トランペットとオルガン

〈10月〉

8日(水) ナージャ・ピサレヴァ ピアノリサイタル (音楽特講)

25日(土) 第25回作陽Music Gallery

26日(日) 第2回秋のポップスコンサート

27日(月) ルネサンス・バロック・トランペット・アンサンブル研究発表会

〈11月〉

- 8日(土) ぐらしき作陽大学こども研究センター公開講座
- 15日(土) 第13回ホルンアンサンブル定期演奏会
- 16日(日) 第23回作陽サクソフォン・オーケストラ演奏会
- 20日(木) 竹内民男・竹内京子DUO RECITAL 2008
- 22日(土) 林原クラス クラリネットアンサンブル“ブリランテ”
- 23日(日) 谷原紀子・稲増優己 デュオリサイタル
- 24日(月) ミラノ・ヴェルディ音楽院友好記念オペラ公演(音楽特講)
- 29日(土) 第21回 日本伝統芸能・邦楽演奏会《さくよう歌舞座》
- 29日(土) 竹内門下生 Earnest Concert 2008 (1)
- 30日(日) 第13回作陽フルートアンサンブル

〈12月〉

- 3日(水) ぐらしき作陽大学・作陽短期大学 教員による 第31回《作品の夕べ》
(音楽特講)
- 5日(金) 第23回合唱研究発表会《コーラル・コンサート》
- 6日(土)・7日(日) 第3回音楽療法国際シンポジウム IN SAKUYO
- 7日(日) アカデミア・ウインド・オーケストラ
- 9日(火) コントラバスターズ
- 9日(火) 音楽教育学科研究発表会 弦楽の部・合唱の部
- 11日(木) 第5回ぐらしき作陽大学・作陽短期大学 芦田クラス クラリネットアンサンブル
- 14日(日) 第36回作陽パーカッショングループ演奏会
- 16日(火) 作曲家兼ピアニスト A・アガジャーノフ 創造の夕べ(音楽特講)
- 17日(水) ぐらしき作陽大学音楽学部音楽教育学科副科吹奏楽研究発表会
- 19日(金) ぐらしき作陽大学・短期大学シンフォニックバンド研究演奏会
- 21日(日) ユーフォニアム・アンサンブル

〈1月〉

- 13日(火) ぐらしき作陽大学 新春ファカルティー・コンサート(音楽特講)
- 19日(月) 室内楽の夕べI
- 20日(火) 室内楽の夕べII
- 20日(火) 作陽ウインド・フィルハーモニー演奏会
- 21日(水) ぐらしき作陽大学 弦楽合奏団定期演奏会
- 22日(木) 室内楽(金管)研究発表会
- 22日(木) 室内楽(弦)研究発表会
- 23日(金) 第3回音楽デザイン専修作品発表会《ミライヘノトビラ》
- 24日(土) 情報音楽制作発表会

- 25日(日) SAKUYO MUSICAL 2009
 25日(日) 第8回サクソフーン室内楽研究発表会
 26日(月) 金管合奏研究発表会
 28日(水) ピアノ重奏・ピアノアンサンブル修了演奏会
- 〈2月〉
- 8日(日) オペラ演習 後期発表会
 17日(火) ドミトリー・フェイギン&新見・フェイギン・浩子Duoリサイタル
 (音楽特講)
 18日(水) 第38回作陽大学管弦楽団定期演奏会
 22日(日) ALL☆STAR Brass Band 第10回定期演奏会
 24日(火) オペラ研究員後期発表会
 26日(木) 音楽戦隊ソルフェレンジャー参上!
 27日(金) びおらーず演奏会
 28日(土) ぐらしき作陽大学音楽専攻科、作陽短期大学専攻科音楽専攻終了演奏会
- 〈3月〉
- 1日(日) ユーフォニアム・チューバアンサンブル演奏会
 2日(月) 5Pianist Concert 伴奏助手5人によるソロ・連弾の夕べ
 3日(火) ひなまつりスター・パズル・コンサート～Smile Orchestra とあつくん
 博士によるオーケストラ入門～
 7日(土)・8日(日) ぐらしき作陽大学・作陽短期大学 卒業演奏会
 10日(火) Blumen木管五重奏演奏会
 12日(木) 作陽混声合唱団定期演奏会
 13日(金) 金管アンサンブル研究発表会
 15日(日) 音楽のたね 音楽会
- ② 学外施設での事業
- 〈4月〉
- 28日(月) ウラディミール・オフチニコフ ピアノリサイタル ルネスホール
- 〈9月〉
- 28日(日) 遙かロシアへの旅路 その1 ルネスホール
- 〈10月〉
- 13日(月) 遙かロシアへの旅路 その2 ルネスホール (岡山市)
 20日(月) ぐらしき作陽大学・オーケストラ・アンサンブル金沢合同演奏会
 (音楽特講) 岡山シンフォニーホール (岡山市)

〈11月〉

8日(土) ぐらしき作陽大学ウインド・フィルハーモニ演奏会

12日(水) フルートデュオリサイタル 2008 黄金のフルートによる饗宴

〈12月〉

10日(水) ドミトリー・フェイギン&新見・フェイギン・浩子Duoリサイタル in
ルネス

23日(土) ぐらしき作陽大学音楽教育学科 アカデミア・ウインド・オーケストラ
定期演奏会2008 米子公演

〈3月〉

2日(月) 第17回作陽トロンボーン演奏会

18日(水) 作陽ニューアーティスト演奏会

③ 学外協力事業

平成20年度学外協力事業として次の各事業が行なわれた。

- ・《音楽宅配便》主催：福山市教育委員会、ふくやま芸術文化ホール
- ・《ブラスクリニック》於：広島県民文化センター
- ・《旭川荘ミュージック・アカデミー》主催：社会福祉法人 旭川荘、林原共済会、
NPOミュージック・シェアリング共催
- ・出雲市出雲芸術アカデミー（合唱・オペラ指導）
- ・《倉敷チボリ公園》チボリガード引継ぎ作業

④ 海外協力事業

平成20年度海外協力事業として次の各事業が行なわれた

- ・中国煙台大学との友好協定に伴う相互訪問が行なわれた。
- ・中国大連大学との友好協定に伴う相互訪問が行なわれた。
- ・中国瀋陽音楽院訪問が行なわれた。
- ・中国煙台大学にて2回に渡り渡邊康雄学部長のピアノリサイタルが行なわれた。
- ・中国大連にて渡邊康雄学部長のピアノリサイタルが行なわれた。

(4) 結論

音楽学部ブランドミッション、それに基づく2008年度重点目標・学科重点目標について、それに取り組む毎月の進捗状況をまとめる等、積極的な取り組みがあった。その事により全教職員が自覚を新たにし、充実した教育活動に邁進した。その結果、数多くの学生がコンクール入賞を果たし、また、地域の音楽文化の向上の為に多くの学生が献身的に取り組んだ。しかしながら、優秀な音楽家を育てる為には更なる努力が必要で、

学生個人個人の素質を見抜き適切な指導をして行く努力が必要である。また、教員自身の専門分野での研修も怠ってはならない、と結論付けられる。

《食文化学部》

(1) 重点項目

① 人間性豊かな母校愛

アセンブリーアワーで学長以下確方面の講師により、大乘仏教に基づく情操教育を週に1回1年間行った。全員協同の成果として、新入生ウェルカムコンサートでベートーベンの[第九]を合唱した。

② 社会が求める人材養成

食生活学科、およびフードシステム学科については、学科名称の変更に伴いカリキュラムの見直しを行った。栄養学科に関しては臨地校外実習の開講時期の変更や新規開講科目の設置を含めたカリキュラムの一部見直しを行った。

地域に貢献できるシステムづくりは地域に密接した食品(豆腐、米粉)などのシンポジウムを2回行った。

管理栄養士国家試験の合格率向上のためには、模擬試験中心に全教員によりこめ細やかな対応を行った。

商品開発、広大連携地域の産学協同事業家などは商品開発センター、地域連携室で行った。出前授業は数多く行われた。

(2) 年間の主要な学事計画

食文学部入学予定者には入門講座の案内を伝え、希望者に対し化学と生物学の入門講座を6講座行った、

① 国際調理法

宮中の儀式料理、四川料理、北京料理、日本料理について手中講義の形で各専門の料理人により講義・実習が行われて。学生は大いに感銘を受けた。

② 工場見学

フードシステム科では実践教育の一環として、産業界、特に地元食産業界との連携を図っているが、商品開発実習、学外オリエンテーション、ゼミ総合演習などの時間を食品製造工場など10数社への工場見学を行った、

③ 家庭科教育実習

家庭科教員については10名が10校に、栄養教諭は48名が22校にて実習を行った。教えることの大切さを学び、受け入れ校からはまじめさを評価された。進路については家庭科教諭、家庭科常勤講師、家庭科非常勤講師が各1名、栄養教諭1名、学校職員5名であった。

④ 海外研修

11名の学生が17日間、イギリスのOxfordに滞在して、ホームステイを経験しながら

ら語学研修を行った。

- ⑤ ヘルスカウンセリング論 栄養学科 3年 98名、4年 2名が2班に分かれて9名の先生、スーパーアドバイザーの講義を受講した。ベーシックコース、アドバンスコースを修了した。

《子ども教育学部》

(1) 部門長の教育方針に基づいた事業報告書

とくに初年度においては学部教育課程のスムーズな実施が期待される。そのために、新年度発足と同時に、教員には宿泊研修、学生には教員との学外オリエンテーションを実施し、大きな成果があった。運営には各種委員会のネットワーク化を図り、相互の連携を密にした。教育課程は新年度からカリキュラム、シラバスにしたがって教育を展開した。学力不足の学生の底上げを図ると同時に、初等教育教諭を目指す学生の学力向上政策を具体的に計画化した。また教育実習を二年次に控え、その環境作りと対応を行っている。対外的には、出前講座、学生参加型の地域サービス、サマーキッズキャンパス、幼稚園、保育所、小学校、高等学校訪問等を実施し、地域から感謝されるとともに、学生の実践力養成の機会ともなっている。さらに、次年度の学生募集に学生参加型のオープンキャンパスや高校生向けの魅力ある学内公開授業を実施した。子ども教育関係する全国レベルの大会、講演、シンポ等も学内において開催した。以下、平成20年度の重点的事業計画に基づいた事業報告をする。

(2) 予算執行された重点項目の事業報告

- ① 学外オリエンテーション事業：子ども教育学部新一年生を対象とした70名（欠席1名）が神戸地区において研修会を行った。子ども教育学部の発足初年度を記念して学長のご講話をいただいた。学生はもとより、教員の親睦において大きな成果があった。
- ② キャリア教育促進事業：新1年生を対象に実施した「教養基礎」、「教養ゼミ」において、外部講師を招聘し、実施した。
- ③ 子育て支援事業：建設委員会、子育て支援センター委員会を立ち上げると同時に、自治体、子ども認定園等を訪問し、その可能性を探っている。
- ④ 地域社会における子育て実態調査事業：子ども研究センターの森楸センター長を中心に7名の教員が参加し、アンケートの作成、印刷、対象を選定し、2,500名規模で調査を実施中である。年度末までに調査を終え、来年度4月以降に分析する。
- ⑤ サマースクール事業：子ども教育学部（委員長）が中心になり、3学部合同で玉島長尾地区児童会の参加の下で実施し、盛会、好評であった。
- ⑥ その他：児童文化部「ぱれっと」、高校出前講座、学内公開授業等を実施し、地域貢献した。

(3) 年間の主要な学事事業

- ① 文部科学省申請に準拠した教育課程の実施：ほぼ、申請に準拠して実施された。
- ② 新任教師研修会：4月の赴任時に実施された。
- ③ 教授会、各種委員会の設置
- ④ 以下、申請項目の事業計画通りに滞りなく実施された。本年度事業計画を参照されたい。

《短期大学音楽科》

(1) 作陽短期大学音楽科グランドミッション3項目の実績

- ① 音楽のもつ無限の可能性を信じ、生涯を通じて良き音楽人になれるよう支援します
音楽を通して、精神力、忍耐力、体力を養い、困難を乗り越えることの大切さを伝え、人に対する思いやりのある心豊かな人間性をもった良き人になれるよう、サポートすることを心掛け、学生達が授業その他の学園生活を充実して過ごせるよう、アドバイザー制を活用し成果を上げた。
- ② 教職員も常に学びつつ学生を支援します
学生の満足度を高める授業、また、学生一人ひとりが達成感を得る指導法については、学生のアンケート調査に実績が証明された。
- ③ 音楽を通して信頼関係をつちかい、社会の多様化に対応できる人材を育てます
対話や音楽を共有し、豊かな感性の発達を促すよう指導した。結果、在学中、卒業後共に地域社会に於いて信頼される人材が育っている。

(2) 平成20年度重点目標2項目の実績

- ① 学生の勉学意欲向上のため、新しい発想によるきめ細かい指導の実施
進捗状況を毎月文書で提出し学科会議で報告した。授業・指導について8割以上の学生が満足するというアンケート結果を得た。
- ② 学生・卒業生の活動を支援するとともに、本学のアピールを積極的に行う
学生の活動支援に関しては、例えば各地に於ける保護者懇談会などで十分な信頼を得ることができた。また各地のOB会などで卒業生の活動支援を積極的に行なってもらえるよう要請し、効果を上げている。進学説明会、高校訪問、出前講座、短大主催の演奏会等に積極的に参加することにより、本学のアピールをした。

(3) 主な事業報告（大学合同事業を含む）

① 学内施設での事業

〈4月〉

11日(木) ジェラルール・プーレ ヴァイオリン公開レッスン&ミニコンサート
(音楽特講)

- 23日(水) ディアナ・ケメルマン ヴァイオリン・リサイタル (音楽特講)
- <5月>
- 29日(木) C・シュリューター トランペットリサイタル (音楽特講)
- 30日(金) 青柳いずみこ ピアノ公開レッスン (音楽特講)
- <7月>
- 1日(火) 室内楽の夕べ
- 8日(火) 第16回 作陽トロンボーンアンサンブル サマーコンサート
- 10日(木) ぐらしき作陽大学・作陽短期大学 トランペットアンサンブル演奏会
- 15日(火) オーケストラ公開リハーサル (音楽特講)
- 22日(火) オペラ演習研究発表会
- 23日(水) レギュラー吹奏楽団研究発表会
- <8月>
- 5日(火) オペラ演習研究発表会
- 6日(水) サックス室内楽研究発表会
- 7日(木) Summer Concert
- 8日(金) Summer Concert
- <9月>
- 27日(土) 第10回作陽ファミリーコンサート
- 29日(月) トランペットとオルガン
- <10月>
- 8日(水) ナージャ・ピサレヴァ ピアノリサイタル (音楽特講)
- 25日(土) 第25回作陽Music Gallery
- 26日(日) 第2回秋のポップスコンサート
- 27日(月) ルネサンス・バロック・トランペット・アンサンブル研究発表会
- <11月>
- 8日(土) ぐらしき作陽大学こども研究センター公開講座
- 15日(土) 第13回ホルンアンサンブル定期演奏会
- 16日(日) 第23回作陽サクソフォン・オーケストラ演奏会
- 20日(木) 竹内民男・竹内京子DUO RECITAL 2008
- 22日(土) 林原クラス クラリネットアンサンブル “ブリランテ”
- 23日(日) 谷原紀子・稲増優己 デュオリサイタル
- 24日(月) ミラノ・ヴェルディ音楽院友好記念オペラ公演 (音楽特講)
- 29日(土) 第21回 日本伝統芸能・邦楽演奏会《さくよう歌舞座》
- 29日(土) 竹内門下生 Earnest Concert 2008 (1)
- 30日(日) 第13回作陽フルートアンサンブル

〈12月〉

- 2日(火) デザミ・ド・ミュージック
- 3日(水) くらしき作陽大学・作陽短期大学 教員による 第31回《作品の夕べ》
(音楽特講)
- 5日(金) 第23回合唱研究発表会《コーラル・コンサート》
- 6日(土)・7日(日) 第3回音楽療法国際シンポジウム IN SAKUYO
- 7日(日) アカデミア・ウインド・オーケストラ
- 9日(火) コントラバスターズ
- 9日(火) 音楽教育学科研究発表会 弦楽の部・合唱の部
- 11日(木) 第5回くらしき作陽大学・作陽短期大学 芦田クラス クラリネットアンサンブル
- 14日(日) 第36回作陽パーカッショングループ演奏会
- 16日(火) 作曲家兼ピアニスト A・アガジャーノフ 創造の夕べ(音楽特講)
- 17日(水) くらしき作陽大学音楽学部音楽教育学科副科吹奏楽研究発表会
- 19日(金) くらしき作陽大学・短期大学シンフォニックバンド研究演奏会
- 21日(日) ユーフォニアム・アンサンブル

〈1月〉

- 13日(火) くらしき作陽大学 新春ファカルティー・コンサート(音楽特講)
- 19日(月) 室内楽の夕べⅠ
- 20日(火) 室内楽の夕べⅡ
- 20日(火) 作陽ウインド・フィルハーモニー演奏会
- 21日(水) くらしき作陽大学 弦楽合奏団定期演奏会
- 22日(木) 室内楽(金管)研究発表会
- 22日(木) 室内楽(弦)研究発表会
- 23日(金) 第3回音楽デザイン専修作品発表会《ミライヘノトビラ》
- 24日(土) 情報音楽制作発表会
- 25日(日) SAKUYO MUSICAL 2009
- 25日(日) 第8回サクソフーン室内楽研究発表会
- 26日(月) 金管合奏研究発表会
- 28日(水) ピアノ重奏・ピアノアンサンブル修了演奏会

〈2月〉

- 8日(日) オペラ演習 後期発表会 藤花楽堂
- 17日(火) ドミトリー・フェイギン&新見・フェイギン・浩子Duoリサイタル(音楽特講)
- 18日(水) 第38回作陽大学管弦楽団定期演奏会
- 22日(日) ALL☆STAR Brass Band 第10回定期演奏会

- 24日(火) オペラ研究員後期発表会
- 26日(木) 音楽戦隊ソルフェレンジャー参上!
- 27日(金) びおらーず演奏会
- 28日(土) 平成20年度 ぐらしき作陽大学音楽専攻科・作陽短期大学専攻科音楽専攻終了演奏会

〈3月〉

- 1日(日) ユーフォニアム・チューバアンサンブル演奏会
- 2日(月) 5P i a n i s t C o n c e r t 伴奏助手5人によるソロ・連弾の夕べ
- 3日(火) ひなまつりスター・パズル・コンサート～Smile Orchestra とあつくん博士によるオーケストラ入門～
- 7日(土)・8日(日) ぐらしき作陽大学・作陽短期大学 卒業演奏会
- 10日(火) B l u m e n 木管五重奏演奏会
- 12日(木) 作陽混声合唱団定期演奏会
- 13日(金) 金管アンサンブル研究発表会
- 15日(日) 音楽のたね 音楽会

② 学外施設での事業

〈4月〉

- 28日(月) ウラディミール・オフチニコフ ピアノリサイタル

〈9月〉

- 28日(日) 遙かロシアへの旅路 その1

〈10月〉

- 13日(月) 遙かロシアへの旅路 その2
- 20日(月) ぐらしき作陽大学・オーケストラ・アンサンブル金沢合同演奏会 (音楽特講)

〈11月〉

- 8日(土) ぐらしき作陽大学ウインド・フィルハーモニー演奏会
- 12日(水) フルートデュオリサイタル 2008 黄金のフルートによる饗宴

〈12月〉

- 10日(水) ドミトリー・フェイギン&新見・フェイギン・浩子D u o リサイタル in ルネス
- 23日(土) ぐらしき作陽大学音楽教育学科 アカデミア・ウインド・オーケストラ 定期演奏会2008 米子公演

〈3月〉

- 2日(月) 第17回作陽トロンボーン演奏会
- 18日(水) 作陽ニューアーティスト演奏会

③ 学外協力事業

平成 20 年度学外協力事業として次の各事業が行なわれた。

- ・《音楽宅配便》主催：福山市教育委員会、ふくやま芸術文化ホール
- ・《ブラスクリニック》於：広島県民文化センター
- ・《旭川荘ミュージック・アカデミー》主催：社会福祉法人 旭川荘、林原共済会、NPOミュージック・シェアリング共催
- ・出雲市出雲芸術アカデミー（合唱・オペラ指導）
- ・《倉敷チボリ公園》チボリガード引継ぎ作業

④ 海外協力事業

平成 20 年度海外協力事業として次の各事業が行なわれた

- ・中国煙台大学との友好協定に伴う相互訪問が行なわれた。
- ・中国大連大学との友好協定に伴う相互訪問が行なわれた。
- ・中国瀋陽音楽院訪問が行なわれた。
- ・中国煙台大学にて 2 回に渡り渡邊康雄学部長のピアノリサイタルが行なわれた。
- ・中国大連にて渡邊康雄学部長のピアノリサイタルが行なわれた。

(4) 結論

作陽短期大学音楽科グランドミッション、それに基づく 2008 年度重点目標・学科重点目標について、それに取り組む毎月の進捗状況をまとめる等、積極的な取り組みがあった。その事により全教職員が自覚を新たにし、充実した教育活動に邁進した。その結果、数多くの学生がコンクール入賞を果たし、また、地域の音楽文化の向上の為にも多くの学生が献身的に取り組んだ。しかしながら、優秀な音楽家を育てる為には更なる努力が必要で、学生個人個人の素質を見抜き適切な指導をして行く努力が必要である。また、教員自身の専門分野での研修も怠ってはならない、と結論付けられる。

《高等学校》

(1) 20 年度高等学校総括

- ① 20 年度は生徒募集については生徒の質、量とも一応の成果があったと思うが 21 年度募集は反省点多く、努力、改善すべき点は多い。
- ② 生徒活動、クラブ活動の活躍は目覚ましいものがあった。
- ③ 食堂、寮の新築に伴って施設の改善が少しは実ったが、不良建物も多く、今なお火災などの心配もある。
- ④ 奨学金を暫時少なくして且つ生徒募集の成果を挙げることにもっと努力しなければいけない。
- ⑤ 21 年度からのコースの再編についてはスムーズにいったが、今後内容の充実をはかり、受験者に理解していただく努力も大切である。

《事務局》

(1) 事務局運営にあたっての基本方針

- ①入学生の確保、学生の満足度の向上、学生の成長、進路の保証に注力する。
 - ・入学者数は全体として減少し、定員確保には至らなかった。入学定員減少に際して危惧されていた、定員減少による危機感のゆりみが根本にあるのではないかと推測される。
 - ・学生満足度の向上に関しては、アンケート調査を実施し、前回のアンケート調査時に比べ若干改善されていることが確認された。事務局の重点目標として掲げ、各部門が具体的な努力を行った結果と思われる。但し、大学に対する各種の要望は増大している。前回調査時と比べ実態そのものは改善・充実している施設・設備等においても、要望がかなり増大していることから学生の質の変化への対応も必要となろう。
 - ・学生の成長については、アSEMBリーアワーが教養に関する科目の必修科目として設定され、教育支援室においてその円滑な実施を支援した。
 - ・進路の保証に関しては、キャリアサポートセンターが、事務局満足度アンケートの入室のし易さ（入室者数増）を重点目標として掲げ、入室者数の大幅な増加を達成した。
- ②改革推進のための計画・実践・評価・改善のサイクルを確立する。

改革推進に係る3プロジェクトの下に中期計画達成のための小プロジェクトを設置し、ほぼ各小プロジェクトから答申を得た。答申の実施については、各プロジェクトにおいて既設委員会への委託等その実現に向け具体的な施策を展開することとした。しかし、改革推進のための計画・実践・評価・改善のサイクルの確立には至っていない。
- ③経費の抑制、収入の確保について具体的な施策を実施する。

予算編成段階での経費削減、電気使用量抑制に関する具体的な提案、警備料金の抑制のための方策を行うとともに、科学研究費に関する説明会の実施等外部資金の導入についての施策も行った。
- ④FD活動の強化を支援するとともに、能力開発研修により、事務職員のSDも含めた組織及び個人の能力アップを図る。

FDの強化については、従前の施策の実施に留まった。FD委員会が設置されたが機能はしたとは言えない。能力開発研修は、宿泊研修を取りやめ、レポートの提出に替えたが、これを関係者に回覧することにより意識の統一を図った。

SD活動として、通信教育の受講、部下指導育成に関する研修等を実施した。また、前述のレポートの提出は事務職員にも課した。
- ⑤大学、短大中期計画の推進を図る

改革推進に係る3プロジェクトの下に中期計画達成のための小プロジェクトを設置し、ほぼ各小プロジェクトから答申を得た。答申の実施については、各プロジェク

トにおいて既設委員会への委託等その実現に向け具体的な施策を展開することとした。

⑥効率的な運営と経営を図る。

人事計画、予算外支出の抑制、運営及び経営の効率化については、個々の具体的な事案とは別に、これを正面から取り上げた検討は行えなかった。

(2) 年間の主要な事業計画

①学生募集関連業務の強化

- ・地域参与 5 名（岡山県、島根県、愛媛県、香川県、広島県）を採用し、高校訪問による学生募集体制を強化した。
- ・営業経験の豊富な専任職員 1 名を採用し、特に高校訪問等の内容強化を図った。
- ・特に卒業生との連携を強め、吹奏楽クリニックを実施した。

②サマーキャンプ等地域交流の活性化

- ・作陽サマーキッズキャンパスを開催。地域住民役 120 人が来場した。
- ・玉島みなと祭りの協力、地域住民を対象として催しである、ひな祭りコンサートや音楽の種コンサートを開催し多数の来場者があった。

③公開講座等による社会人教育の活性化

- ・子ども研究センター主催公開講座、岡山県生涯学習講座等を開催し、安定して受講者を確保した。

④夏季大学等リカレント教育の実施

- ・リカレント教育は実施されなかった。

⑤事務関係満足度アンケートの実施

- ・全学生を対象にアンケートを実施し、集計結果を関係部署に配布した。学生向けへのアンケート結果野の公表や問いに対する回答は 4 月に学生向け回答文書を作成、掲示予定である。

⑥自己点検・評価活動の実質化

- ・本学独自の様式による自己点検・評価報告書を作成した。作成メンバーも前年とは異なり、若手教職員を主な構成員として、自己点検・評価による改善活動の浸透を図った。

⑦各種演奏会の見直し

- ・事務局として大きな見直しは行えなかった。

⑧学科改編、専修再編の推進

- ・学科名称の変更及び食生活学科、フードシステム学科のカリキュラム見直しに着手した。今年度は大幅な改正が困難なことから 22 年度の本格的な改正に向けて検討を依頼している。
- ・音楽関係の専修再編に関する検討は中座している。

⑨中期プロジェクトの推進

前述（１）の⑤のとおり

⑩同窓会との連携の強化

小プロジェクトで検討したが具体的な提案は行われていない。

⑪外国人留学生、科目等履修生等の受け入れ

外国人留学生は21年度から4人を受け入れる。科目等履修生の受入数は未定である。

⑫産官学、高大、地域連携の推進

県の事業である生涯学習講座の引き受け、地方公共団体の各種委員への就任、高校への出前授業、進路指導の一環としての大学見学の引き受け、地元業者との弁当の共同開発、「食育の歌」の発表、作陽キッズキャンパスの開発等々多様な連携、事業を展開した。

⑬学内広報、学生広報の充実

学生向け広報誌「スピリッチ」の刊行、「作陽ニュース」の継続発行、学生向け休講情報のHP上での発信等を行った。また、「事務局満足アンケート」の実施により学生の要望等を調査した。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

①資金収支計算書の概要

収入の大部分を占める学生生徒納付金は予算に対して約49,647千円の減収、寄付金収入は7,588千円の増収、補助金収入は15,127千円の減収、事業収入は14,323千円の減収となっています。支出のうち人件費支出については予定外退職金による増加があるにもかかわらず、教職員人件費の減額により予算比約30,115千円の減少。経費支出については経費削減策の効果により教研経費、管理経費合わせて予算に対し執行経費は27,083千円が減少しております。有価証券の満期償還による支払い資金の増加、引当特定資産繰入収入の増加等により、繰越支払資金が増加したため支出合計は収入合計と同様に予算比1,285,240千円の支出増となりました。

②消費収支計算書の概要

収入について、学生生徒等納付金、手数料、補助金、事業収入が予算に対して84,936千円の減額となっていますが、寄付金、資産運用収入、退職金財団からの交付金収入等の増加により、帰属収入合計では予算比約12,900千円増の3,134,719千円となっています。支出については、管理経費の予算比支出に若干増加がみられるものの、人件費、教育研究経費とも予算比減額となっており、経費節減の効果が表れているといえます。その結果、消費支出合計は予算比53,254千円減額の3,111,312千円で、帰属収支差額は23,407千円の収入超過となりました。消費収支差額は78,107千円の支出超過となっています。

(2) 資金収支計算

(収入の部)

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
1 学生生徒等納付金収入	2,254,983	2,205,336	49,647
2 手数料収入	36,787	30,949	5,838
3 寄付金収入	94,864	102,452	△ 7,588
4 補助金収入	538,648	523,521	15,127
5 資産運用収入	33,558	35,344	△ 1,786
6 資産売却収入	0	1,000,000	△ 1,000,000
7 事業収入	77,834	63,511	14,323
8 雑収入	85,646	162,776	△ 77,130
9 前受金収入	394,122	381,721	12,401
10 その他の収入	178,635	496,591	△ 317,956
11 資金収入調整勘定	△ 421,343	△ 443,226	21,883
12 前年度繰越支払資金	1,416,738	1,416,738	△ 0
収入の部合計	4,690,472	5,975,712	△ 1,285,240

(支出の部)

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
1 人件費支出	1,903,997	1,873,882	30,115
2 教育研究経費支出	591,826	564,931	26,895
3 管理経費支出	265,039	264,851	188
4 借入金等利息支出	109	80	29
5 借入金等返済支出	4,686	4,686	△ 0
6 施設関係支出	88,160	74,910	13,250
7 設備関係支出	48,676	44,977	3,699
8 資産運用支出	506,360	932,748	△ 426,388
9 その他の支出	128,308	140,763	△ 12,455
10 資金支出調整勘定	△ 84,475	△ 74,550	△ 9,925
11 次年度繰越支払資金	1,237,786	2,148,433	△ 910,647
支出の部合計	4,690,472	5,975,712	△ 1,285,240

主な収入科目の内容は次のとおりです。

- ㊦ 収入の大部分を占める学生生徒納付金収入は2,205,336千円となりました。
授業料、入学金、教育運営費、実験実習費、施設設備費などの収入が主なものです。
- ㊧ 手数料収入は30,949千円となりました。
入学検定料、試験料などの収入が主なものです。
- ㊨ 寄付金収入は102,452千円となりました。
大学・短大後援会、高等学校PTAからの寄付金が主なものです。
- ㊩ 補助金収入は523,521千円となりました。
国庫補助金、岡山県からの地方公共団体補助金が主なものです。

主な支出科目の内容は次のとおりです。

- ㊦ 人件費支出は1,873,882千円となりました。
教員人件費、職員人件費、退職金などが主なものです。
- ㊧ 教育研究経費支出は564,931千円となりました。
教育研究活動に直接必要な消耗品、旅費交通費、印刷製本費、光熱水費、業務委託費などの経費が主なものです。
- ㊨ 管理経費支出は264,851千円となりました。
教育研究の諸活動に間接的に必要な消耗品等の経費です。
- ㊩ 施設関係費支出は74,910千円となりました。
主に高等学校の寮兼食堂の建築に伴う土地造成、建物、構築物に係るものです。
- ㊪ 設備関係支出は44,977千円となりました。
教育研究用機器備品、その他の機器備品や図書などの購入経費です。

(3) 消費収支計算

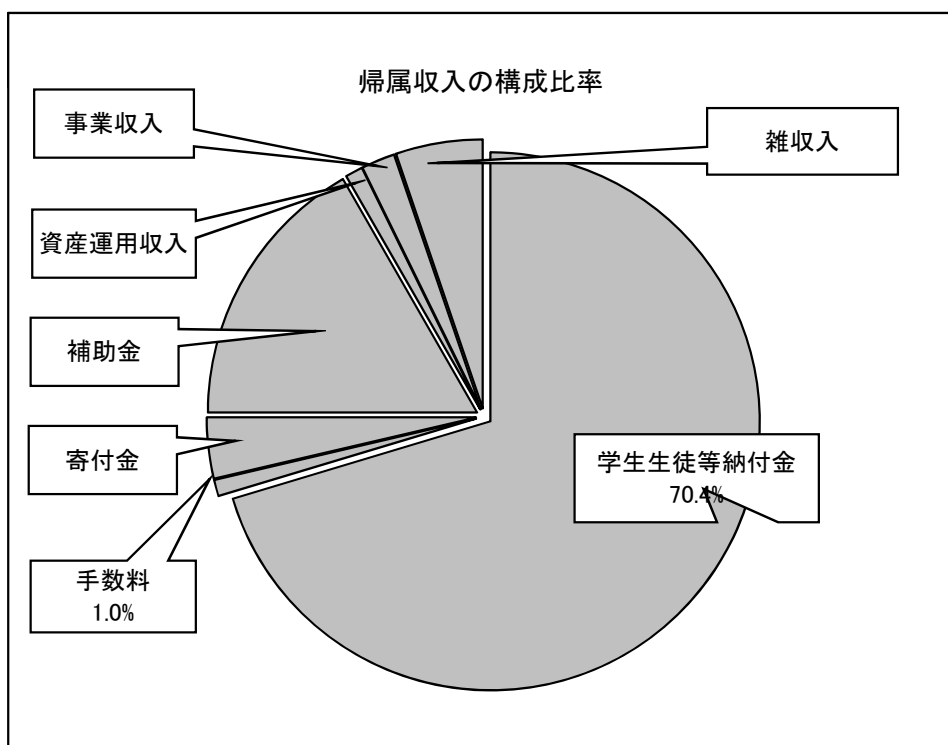
(収入の部)

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
1 学生生徒等納付金	2,254,983	2,205,336	49,647
2 手数料	36,787	30,949	5,838
3 寄付金	97,994	114,785	△ 16,791
4 補助金	538,648	523,521	15,127
5 資産運用収入	29,927	32,706	△ 2,779
6 事業収入	77,834	63,511	14,323
7 雑収入	85,646	163,912	△ 78,266
8 帰属収入合計	3,121,819	3,134,719	△ 12,900
9 基本金組入額合計	△ 136,836	△ 101,513	△ 35,323
10 消費収入の部合計	2,984,983	3,033,206	△ 48,223

主な収入の内訳は次のとおりです。

- ㊦ 寄付金には、資金的な寄付金のほかに現物寄付金が含まれます。
- ㊧ 資産売却差額は売却額と帳簿価額との差額のことですが、今回は該当事項はありません。
- ㊨ 帰属収入とは、学生生徒納付金、手数料、寄付金、補助金などの負債とならない法人に帰属する収入のことです。
- ㊩ 基本金組入額は、学校法人が教育研究活動を行なうためには、校地、校舎、機器備品、図書、資金などの資産を持ち、これらを維持する必要があります。これらの諸活動に必要な資産を取得するために、帰属収入から充てた金額をもって、維持する資産の額とし、これが学校会計で基本金組入額とよばれているものです。



(支出の部)

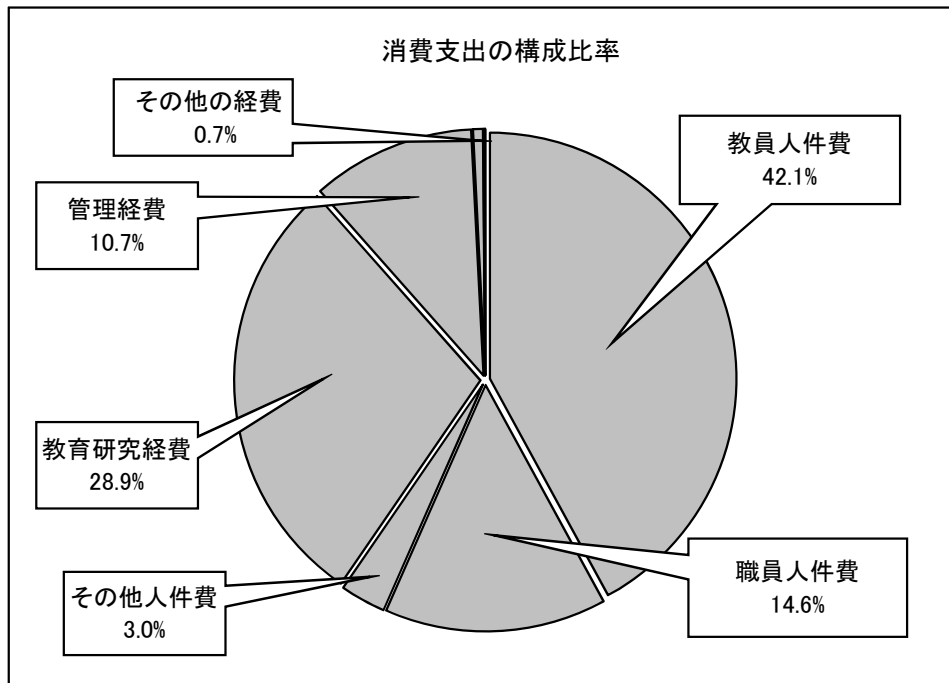
(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
1 人 件 費	1,906,092	1,853,852	52,240
教員人件費	1,352,704	1,308,328	44,376
職員人件費	489,801	453,052	36,749
その他人件費	62,787	92,472	△ 29,685
2 教育研究経費	920,254	898,650	21,604
(内減価償却額)	328,428	330,591	△ 2,163
3 管理経費	332,428	334,028	△ 1,600
(内減価償却額)	67,389	69,177	△ 1,788
4 借入金利息	109	80	29
5 資産処分差額	120	20,331	△ 20,211
6 徴収不能引当金繰入額	5,196	3,511	1,685
7 徴収不能額	367	860	△ 493
8 消費支出の部合計	3,164,566	3,111,312	53,254
9 帰属収支差額	△ 42,747	23,407	—
10 当年度消費収支差額	△ 179,583	△ 78,107	—

注1 帰属収支差額=帰属収入-消費支出

主な支出の内訳は次のとおりです。

- ㊦ 人件費の退職金について、消費収支では資金収支と異なり、退職給与引当金繰入額が計上されています。
- ㊧ 教育研究経費、管理経費には、資金支出のほかに減価償却額が計上されています。
- ㊨ 資産処分差額とは、建物、機器備品、図書などの廃棄にともなう、除却損のことです。
- ㊩ 金銭債権のうち、回収不能額を見積もって設定する引当金を徴収不能引当金、引当金を設定していない場合、或いは引当金額を超えている場合は徴収不能額として処理します。



(4) 貸借対照表

貸借対照表

資産の部

(単位：千円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
資 産	固定資産	20,676,076	21,343,344	△ 667,268
	有形固定資産	17,307,809	17,599,289	△ 291,479
	その他の固定資産	3,368,266	3,744,055	△ 375,789
	流動資産	2,242,255	1,597,768	644,487
合 計		22,918,331	22,941,112	△ 22,781

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

(単位：千円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
負 債	固定負債	713,812	736,347	△ 22,534
	流動負債	483,555	507,208	△ 23,653
	計	1,197,367	1,243,555	△ 46,187
基本金		23,213,888	23,112,375	101,513
消費収支差額		△ 1,492,924	△ 1,414,818	△ 78,107
合 計		22,918,331	22,941,112	△ 22,781

㊦ 平成20年度末（平成21年3月31日）の資産、負債、基本金、消費収支差額の財政状態を示しています。

㊧ 資産の概要

有形固定資産の減少は建物、構築物、機器備品の減価償却或いは除却によるもの、その他固定資産の減少は有価証券の満期償還によるものです。

流動資産の増加は有価証券の満期償還による現金預金が増加したことによるものです。

㊨ 負債の概要

固定負債の減少は主に退職給与引当金によるもの、流動負債の減少は前受金によるものです。

㊩ 基本金の概要

増加の主因は高等学校寮兼食堂建築及び機器備品・図書を購入によるものです。

㊪ 消費収支差額の概要

前年度までの支出超過額に今年度の支出超過額78,107千円が加わりました。

4. 帰属収支差額と主な財務比率等の推移

(1) 帰属収入と帰属収支差額の推移

【単位：千円】

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
帰属収入合計	3,659,442	3,543,025	3,390,969	3,303,622	3,134,719
消費支出合計	3,629,406	4,842,736	3,337,832	3,236,670	3,111,312
帰属収支差額	30,036	△ 1,299,711	53,137	66,953	23,407

(2) 消費収支計算の主な財務比率の推移

【単位：千円】

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
人件費比率	61.9%	59.5%	59.5%	59.7%	59.1%
教育研究経費比率	25.0%	27.8%	28.8%	27.4%	28.7%
管理経費比率	11.2%	9.8%	10.0%	10.7%	10.7%
消費支出比率	99.1%	136.7%	98.4%	98.0%	99.3%

※ 人件費比率＝人件費／帰属収入×100

教育研究経費比率＝教育研究経費／帰属収入×100

管理経費比率＝管理経費／帰属収入×100

消費支出比率＝消費支出／帰属収入×100